

(学校教育目標) 力強く未来を拓き、

社会の創り手を目指す 児童の育成 【キーワード】「ありがとう」

挨拶・整理・笑顔・読書・掃除・感謝 文責 校長 藤田哲夫

【かづさの教え】

かしこく つよく さわやかに 南島原市立加津佐小学校 学校だよりNo40

令和4年1月21日

楽しんで 挑戦 1 1

久しぶりの凧揚げ

〇縄跳びの季節がやってきました。校長室前 のジャンピングボードの使用率が高くなり、楽 しそうに短縄跳びをしています。ジャンピング ボードは、もともと別の場所にあったのです が、私が子ども達の縄跳びの様子を見たかっ たので、校長権限で、校長室前に置きまし た。お蔭で、いつでもすぐに、子ども達の縄跳 びの様子を見ることができます。校長の楽し みの一つです。

○校長室の窓から見ていると、必ず、誰かが 気付いて、笑顔を送ってくれます。可愛い子 達です。

「あや跳びができるようになりました。」 「二重跳びが3回できました。」

-年生が、嬉しそうに報告してくれました。 「すごいねえ!」

「一年生でも、いろんな技ができるんだね。」 「練習したら、どんどん上手になるんだね。」 私も、窓越しに声をかけると、一年生は、また 嬉しそうに縄跳びを続けます。

○ジャンピングボードという教具は、縄跳びを 楽しむための素晴らしい教具です。そこに置 いているだけで、子ども達はジャンプを始めま す。そして、縄跳びを始め、楽しみながら、縄 跳びに挑戦します。そして、それを積み重ね ていく中で、縄跳びを身に付け、いろいろな技 ができるようになっていきます。

〇先日、ニュースを見ていたら、東京パラリン ピックの車椅子バスケットで活躍した鳥海選 手がインタビューを受けていました。そのイン タビューの最後に、色紙に一言書いて紹介す る場面があったのですが、その色紙に書いた のが、「楽しんで挑戦」という言葉でした。練 習が苦しかったり、うまくいかなかったりする こともあるけど、楽しんで挑戦することで、自 分は成長できたという話をしていました。とて も大切なことだと思い、昼の放送で、子ども達 にも紹介しました。

○縄跳びをしている子ども達は、まさしく「楽し んで挑戦」しているのです。最初はうまくいか なくても、何度ひっかかっても、楽しんで挑戦 し続けることで、成長します。できることが増 えてきます。縄跳びだけではなく、いろんなこ とに楽しんで挑戦して欲しいです。

○1年生の授業に入る機会があり、久し ぶりの凧揚げをおこなった。自分が小学 生の頃の凧揚げと言えば、竹を削って骨 組みを作り、紙を貼って、尻尾をつけたも のを飛ばしていたが、今の凧は、いわゆ るビニール凧であり、1年生でも簡単に |飛ばせるようになっている。

○その日は、いい風が吹いており、上手 に風をとらえれば、走らなくても、自然に 凧は揚がる好条件であった。でも、1年 生にとっては、走りながら揚げることが楽 しいようだったので、特に余計な口出し はしなかった。注意を促したのは、他の 児童と近づきすぎないこと(糸がからま る)と木や照明等に近づかないことぐらい であった。

○また、糸を長く出した状態で走り回ると 落ちたときや他の凧と交差したときにか らまる確率が高くなるので、「風が出た ら、走らずに糸を出すこと」と「風がなく なったら糸を巻いて短くすること」を繰り 返し、指示した。

〇今年の1年生は、飲み込みが早く、指 示をきちんと守る児童が多かったので、 糸が絡まってどうしようもなくなったり、木 や照明にひっかかって取れなくなること がなかった。こういうところにも、学習規 律が身についている良さがでるものであ る。指示を守らず、自分勝手に楽しもうと すると、そうはいかない。

さすがの1年生である。

